

エゾアワビの母貝の組み合わせによる成長差

福島県水産種苗研究所

1 部門名

水産業—種苗研究(開発)—種苗生産、その他アワビ

2 担当者

川田暁

3 要旨

エゾアワビ雌母貝2個体と雄母貝3個体を総当たり交配して6家族を作出し、家族間の飼育成績を比較した。定法によりふ化後0~90日齢(~10mmサイズ、前期飼育)までを採苗板飼育、91日齢以降(後期飼育)を籠飼育した。後期飼育ではN社製のアワビ配合飼料を1週間に3回を目安に給餌した。

- (1) 当県において採苗板飼育から籠飼育への移行期に当たる平均殻長10mmサイズ(90日齢)における6家族の生残率は、9.5~35.8%、平均34.2%であり、雌4と雄4を交配した家族で低い値であった(図1)。
- (2) 91日齢における6家族の平均殻長は、10.7~11.4mm、平均11.0mmで、157日齢における平均殻長は17.5~20.1mm、平均18.7mmで、323日齢における平均殻長は30.1~34.4mm、平均31.9mmであった。90日齢における生残率が低かった雌4と雄4を交配した家族で最も成長が低かった。
- (3) 6家族を各々成長の良い上位群と成長の良くない下位群の2群に分けると、最も成長、生残の良くなかった雌4と雄4を交配した家族の上位群については、323日齢における平均殻長が37.9mmと高い値を示したが、これは密度効果によるものと考え(図2)。
- (4) 採苗板からの剥離サイズで生残率の低い家族は、その後の成長も良くない。籠飼育に移行させる稚貝は、主に剥離サイズで成長、生残が良好な群を使用すべきと考えられ、全数を籠飼育に移行させないほうが後期飼育を効率的に行えるものとする。

4 その他の資料等

- (1) 平成20年度福島県水産種苗研究所事業報告書

